

本態性振戦（重症）に関する研究

研究分担者 古和 久典 （独）国立病院機構松江医療センター副院長

研究要旨

本態性振戦の中で稀少頻度と推定される「本態性振戦（重症）」の診療の質を高めるため、診療 GL を作成を進めている。

A. 研究目的

本態性振戦（重症）は、本態性振戦患者の中で震えのために就労や日常生活にきわめて大きな支障を来している患者をさしているが、本態性振戦（重症）のみならず本態性振戦そのものの疫学や臨床像は十分明らかにされていない。本研究では、本態性振戦の疫学や臨床像を明らかにし、診療 GL や診療手順を整備することによって診療の均霑化を図ることを目的としている。

B. 研究方法

GRADE システムを取り入れた Minds
2017 に準拠して、診療 GL の作成を進めた。

（倫理面への配慮）

該当なし

C. 研究結果

既に選定した本態性振戦の診療 GL 作成メンバーに CQ を分担し、推奨文・回答文の作成を進めている。

メールで種々の情報を共有するとともに、2021 年 1 月 7 日に Web メンバー会議、2021 年 3 月 7 日に Web で Minds から講師を招聘して推奨度について指導及び意見交換を行った。

D. 考察

今後、診療 GL が完成時には公表するとともに、実臨床における本態性振戦の評価法や診断基準の有用性とそれらの問題点を検討していく。

E. 結論

本態性振戦に対する診療 GL 作成を進めている。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし